

食育だより

新座市立第二中学校
校長 小関 直
栄養教諭 加藤耕平

©少年写真新聞社2023

2学期が始まります。夏休みの生活はいかがだったでしょうか。規則正しい生活は守れたでしょうか。入眠が遅くなり、それによって朝ごはんの時間が遅くなっていただけ家庭もいると思います。暑い日が続いたため、屋外で運動しようともできず、家でのスクリーンタイムが増えないようにご苦労があったことと思います。また少しずつ学校のある日常の生活リズムに身体を戻していきましょう。

お米が買えない時代がくる！？



8月下旬から「お米が買えない」という声が増えているとニュースになっています。日頃から給食の納入業者と連絡を取っているのですが、7月の中旬にはお米の品薄状態が見られるという情報を入手していました。ただ、その時の業者の見解は在庫は十分にあるというものでした。しかし現状は、「品不足→なくなる前に買う」という連鎖に拍車がかかり、品薄状態が続いております。我が家もお米がなかなか買えず「家のお米が枯渇する不安」を味わいましたので、この消費者心理はよく理解できます。これは、野菜や魚の値段が高いということとは根本的に異なるものだという印象を持ちました。それはやはり日本人にとっての「主食」だからだと思います。飽食の時代なので日頃あまり意識することはありませんが、改めて「主食の重み」を感じました。そんな日本人の主食であるお米ですが、将来展望について、ある懸念がされているのをご存じでしょうか。今年の6月に全国米穀販売事業共済協同組合から発表された、『米穀流通2040ビジョン』から引用します。

コメ生産量の推移予測

(単位：万トン、実線は実績値、破線は予測値)



(予測)

2040年のお米の生産者は、約30万人。
これは2020年と比べて、65%の減少。

このレポートによると、2038年には国内で食べるお米を賄いきれなくなる可能性があると言われています。これは最悪の予想図ということですが、もし実際にこのようになってしまった場合は、海外からお米を輸入することになると思います。自分たちの主食を自分たちで賄うことができないというのは恐ろしいことだだと思います。「生殺与奪の権を他人に握らせるな」という言葉がありますが、まさにその状態に近いものを感じます。食べ物を作ることにもっと真剣に向き合う時期が来ているのかもしれない。(・・・ちなみに、上の台詞は『鬼滅の刃』に登場します。9月24日は鬼滅の刃の柱と呼ばれる方々の好物をイメージした給食です。お楽しみに♪)

